

33. 兵庫県洲本市

1. 地域概要

対象地域	兵庫県洲本市 市街地エリア			
申請主体	兵庫県洲本市			
計画名	洲本市中心市街地におけるオーバーツーリズム解消・未然防止対策推進事業			
観光客データ		平成31年	令和5年	令和6年
	入込観光客数（千人）	1,178	995	1,201
	-国内	1,155	975	1,177
	-訪日外国人旅行者	24	20	25
地域の特徴・観光資源等	<ul style="list-style-type: none"> 洲本市は、国生み神話や御食国など豊かな歴史と文化をもつ淡路島の中心に位置する。瀬戸内海の温暖な気候に恵まれ、城下町である中心市街地には島内唯一の温泉街や繁華街のほか、快水浴場百選の大浜公園や国立公園に指定された三熊山を有し、ハイシーズンには海水浴や温泉などを求めて多くの観光客で賑わう。 国際線を持つ神戸空港や徳島空港から60分圏内の好立地にあり、近年メディア露出も増加している。 			
協議体制	協議の場			
	洲本市オーバーツーリズム未然防止協議会			
	<ul style="list-style-type: none"> 洲本市における特徴、課題、資源を明らかにするとともに、訪日外国人旅行者やオーバーツーリズムに係る情報を共有し、観光施策の方向性や対策等を協議する。 			
	参加者			
行政機関等	事業者			
	<ul style="list-style-type: none"> 洲本市商工観光課 	<ul style="list-style-type: none"> USPジャパン 代表取締役 新津 研一 他 		
事業者		住民関係者		
<ul style="list-style-type: none"> 淡路島観光協会 洲本商工会議所 洲本飲食組合 淡路交通株式会社 他 		<ul style="list-style-type: none"> 連合町内会長 他 		

エリアマップ



温暖な気候が育む美味な農作物たち



環境省「快水浴場100選」認定 大浜公園



瀬戸内海が育む美味な魚たち





昭和レトロな趣と江戸からの町割り残る城下町



築城499周年 洲本城跡



年間60万人の宿泊者が訪れる洲本温泉街

2. 課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1.	<p>観光地の混雑・道路の混雑、マナー問題</p> <ul style="list-style-type: none"> 大浜公園では夏の海水浴シーズンや花火大会などのイベント時に多くの観光客が訪れ、ビーチ周辺では駐車場不足や道路渋滞が発生。また、空き家を利用した民泊施設が急増する中、利用者と近隣住民の間で摩擦が起き、苦情が寄せられている。 	観光客・住民
2.	<p>特定の時間帯、場所への集中</p> <ul style="list-style-type: none"> 海水浴場のある大浜公園や宿泊施設のある温泉街に多くの観光客が集中する一方、周囲の観光スポットは閑散としている。また、一年を通して夏のハイシーズンと夏以外のオフシーズン、時間帯では日中と夜間の間で、観光需要の著しい格差が生じている。 夏周辺に「花火大会」や民間事業者による「うみぞら映画祭」（ふるさとイベント大賞 内閣総理大臣賞受賞）、「フィジーク大会」などが大浜海岸で実施されており、冬季や市街地等特定の場所以外での集客が課題。 	観光客
3.	<p>受入限界のリスク</p> <ul style="list-style-type: none"> 万博や周辺空港の国際化を背景に今後は訪日外国人旅行者の来訪拡大が見込まれる中、受入側の人手不足や受入環境整備の遅れ、住民理解の遅れなどにより、通勤・通学など地域住民の生活への影響や、市内を訪れる旅行者の満足度低下が懸念される。 	観光客・住民

① 地域の関係者による協議会



騒音等に対する住民の対応
民泊施設の周辺に周知看板を
多数設置している様子。

② 特定時期・時間における混雑



イベント時における生活道路の
交通渋滞

③ 特定箇所での集中的な混雑



大浜海岸における夏のイベント時の
混雑状況

3. 背景・要因

主な背景・要因

1. 人口減少、 空き家の増加による マナー悪化

- ・ 淡路島が近場の観光地として注目を浴びることで、過疎化が著しく進展する市内の空家に注目する事業者が増加。実に令和2年以降で兵庫県内で新設された民泊の内、75%弱が淡路島内で新設されている。住宅地に存在するにも関わらず、管理者が淡路島外にいる施設もあり、地方新聞に掲載されるなど問題化している。
- ・ また、そもそも淡路島の人口は昭和22年の22.7万人をピークに長期的には人口減少してきた過去を持ち、年間1,000万人を受け入れられるような都市設計がなされているわけではない。よって街中は幅員も狭く、イベント等で混雑すると、慢性的な渋滞が発生してしまう。

2. 淡路島全体の再開発促進、 地形特性による道路混雑

- ・ コロナ禍を契機としてマイクロツーリズムが著しく促進され、パソナグループによる淡路島の北部の開発が脚光を浴び、淡路島のメディア露出が増加することにより、近場の観光地として再発見が進んだ。
- ・ 洲本市では、夏季に海上アスレチックが設置される大浜海水浴場を目的として多くの観光客が訪れる。これにより、周辺の駐車場が不足し、慢性的に道路渋滞を発生させるなどしている。また、道路が碁盤の目ようになっており、特性上、道路混雑がより発生しやすい。



広報すもと
4月号 (令和5年)

- ・ 住宅土地統計調査によると、洲本市内の25%が空家である。
- ・ 全国的な問題である「空家」が観光地においては、民泊施設として活用されている。
- ・ 上手く活用されれば地域の資産となる一方、適正に管理ができなければ地域と対立を生み、三方悪しになってしまう。
- ・ 令和2年から令和7年に兵庫県内で新設された民泊施設の内、75%が淡路島で新設されている。一部は地域と摩擦が起き、新聞等で報道されている。



出典：地理院地図（電子国土WEB）

平成30年	住宅総数	世帯総数	空き家数	空き家率	その他 空き家数	その他 空き家率
洲本市	23,490戸	17,730世帯	5,760戸	24.5%	2,980戸	12.7%
南あわじ市	21,080戸	16,980世帯	3,950戸	18.7%	2,560戸	12.1%
淡路市	23,100戸	17,230世帯	5,980戸	25.9%	3,310戸	14.3%

住宅土地統計調査結果（平成30年）/洲本市空家等対策計画 資料編

- ・ 洲本市は、令和8年に築城500周年を迎える城下町として発展してきた歴史を持つ。
- ・ そのため、江戸期から変わらぬ碁盤の目のような街並みを残している。この街並みは強みである一方、交通渋滞を生みやすい特性も持っている。

4. 対策の概要

目指す姿	中心市街地で起きる観光郊外を未然に防止・抑制し、市全体で観光の恩恵を享受することで、地域の核となる風土や文化を維持しながら、多様な個性が輝き続ける街として再興させ、シビックプライドの醸成を目指す。
KGI	(指標) 観光振興に取り組むことが、市の発展につながると思う市民の割合 現状値：57% (令和6年度) 目標値：70% (令和12年度)

- オーバーツーリズム対策は、町の在り方を決める息の長い事業でもあることから、洲本市における風土や課題、資源等を明らかにして、関係者で共有することが必要である。その一方、持続可能な観光地を目指し、必要な事業は速やかに実施することが求められている。

■ 補助事業の実施概要

受入環境の整備・増強	
① 洲本 IC 周辺機能強化に向けた測量調査等事業	<p>【背景・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 洲本市の玄関口であるICは利用者が増加しており、受入環境が逼迫している <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 洲本市ICの待合機能強化に向け、必要となる基礎資料を揃えるため測量調査を実施する
② 温泉街と繁華街を結ぶ自動運転バスの観光コンテンツ化事業	<p>【背景・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国的に泊食分離の動きが加速していることを背景とし、地域消費額を向上させるために必要な二次交通の強化を図ることを目的に、自動運転バスの実証を実施する <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動運転バスの実証を行うと共に、地区のPR映像を作成するほか、OPイベントの実施等を行い、主に観光客を対象にしつつも、住民も取り込んだ移動手段の確保を図る

需要の適切な管理

③ 遊休地を活用した駐車場整備事業

【背景・課題】

- 夏季を中心としたハイシーズンにおける駐車場需要に対する供給が不足している

【事業内容】

- 市内の遊休地を駐車場として整備することで、観光客と住民の満足度向上に繋げる。また、行政が取り組みを行い需要を明らかにすることで、民間遊休地における活用方法の解の一つとして提示し、同様の取組推進を促す

需要の分散・平準化

④ ストリートカルチャーやミューラルアートによる新たな賑わい等創出事業

【背景・課題】

- 本市で行われるイベントが夏季に集中しているほか、市街地を周遊させるコンテンツが不足している

【事業内容】

- ミューラルアートやブレイクダンスといったHipHop三大要素を活用しながら、地域の伝統文化も盛り込んだイベントを冬季に開催し、夏季目つ特定の場所に集中する需要を平準化させる。また、JapanWallsが手がける和歌山県白浜町や(株)Wallshareが手がける大阪市此花区のようにミューラルを活用し、言葉が分からずとも楽しめるコンテンツを街中に整備させることで市街地の周遊を促す。ただし、ミューラルアートについては、本年がミューラルと地域住民とのファーストタッチであることから、拒絶反応が生じないように取り組みを進める

⑤ 地域観光アプリ機能強化事業

【背景・課題】

- 地域の情報が伝わらないことによる混乱・混雑が生じている

【事業内容】

- 洲本市の観光アプリ(スモソー)に駐車場情報や現在空いている店舗のみを表示する機能を表示する機能を整備する

4. 対策の概要

需要の分散・平準化

⑥大浜公園・洲本城跡等のナイトタイムエコノミー事業

【背景・課題】

- 本市における観光スポットでは、日中に需要が集中している

【事業内容】

- 1日を通して観光需要を平準化することで滞在時間の増加を企図し、夜間照明やフォトスポットの整備を行う

⑦市街地から多自然地域への新たなモデルツアー造成事業

【背景・課題】

- 洲本市における観光需要は、市街地近辺に集中している

【事業内容】

- 市街地の訪日外国人旅行者対応が可能な民間の観光拠点施設から郊外の多自然地域へ観光客を周遊させる新たなツアーの造成を行う

マナー違反行為の防止・抑制啓発

⑧マナー啓発を目的とした多言語案内看板整備事業

【背景・課題】

- 淡路島においても訪日外国人旅行者が少しずつ増加している

【事業内容】

- 増加する訪日外国人旅行者に対応する多言語看板を本市の観光スポットに整備することで、トラブルの未然防止を図る

地域住民と協働した観光振興

⑨大浜公園の清掃・駐車管理・観光案内等連携事業

【背景・課題】

- 観光振興と住民生活の両立を図るための観光理解が不足している

【事業内容】

- 地元事業者が主体となって、地域住民等と協働して、夏季海水浴の運営や清掃、観光案内等を実施することで、住民の観光理解を促進する

地域全体の観光地域づくりにかかわる事業

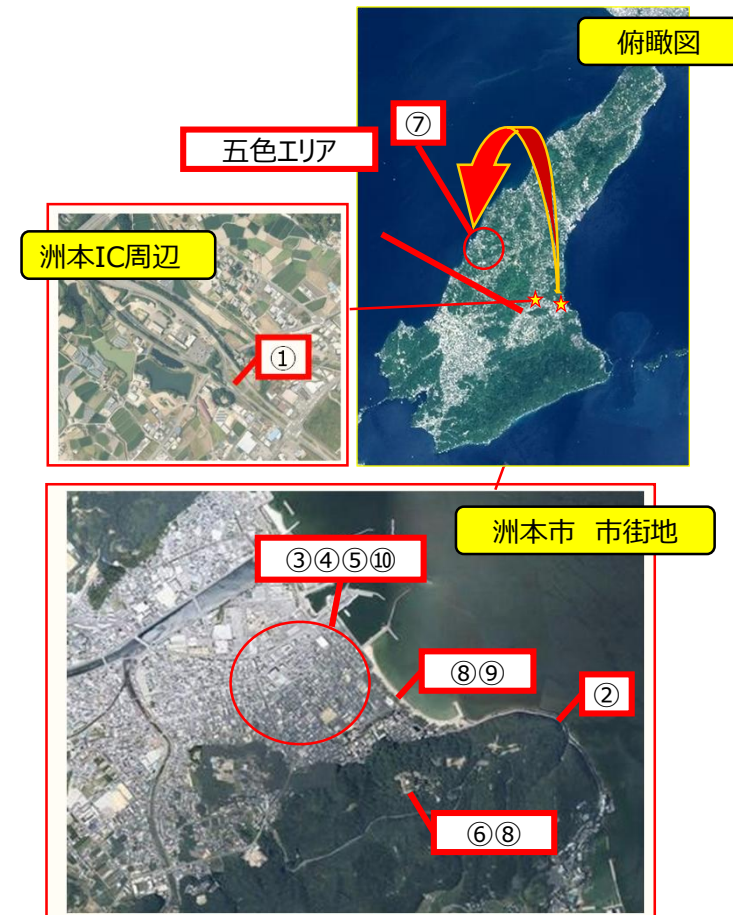
⑩地域全体の観光地域づくりにかかわる事業

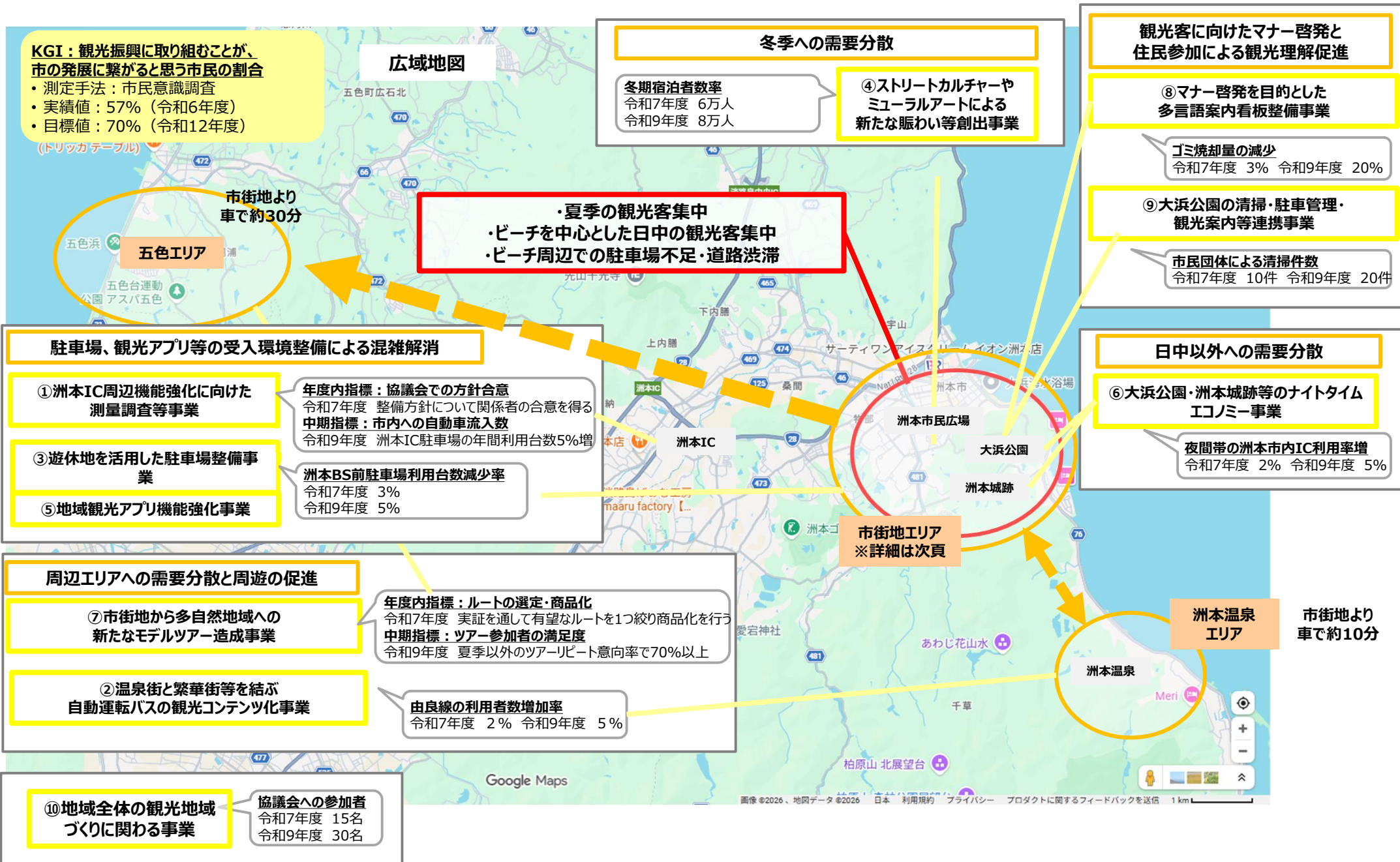
【背景・課題】

- 観光を核としたまちづくりを行うための合意形成までのプロセス等が不足している

【事業内容】

- 訪日外国人旅行者対応の専門家を招聘し、地域で活動する地銀、交通事業者、宿泊事業者、住民等の幅広い関係者を集め、互いの意思、行政の取組共有を行う
- 地域の事業者等へ、そもそもの訪日外国人旅行者や観光に対する認知や理解を深めるためのセミナーを開催するほか、洲本市についての分析等を実施する







5-①. 主な取組（詳細）

受入環境の整備・増強

補助事業②	温泉街と繁華街を結ぶ自動運転バスの観光コンテンツ化事業		
事業目的	主に観光客を対象とした移動手段の確保		
実施主体	兵庫県洲本市	実施期間	令和7年11月上旬～令和7年11月下旬

【背景・課題】

- ・ 洲本温泉街は関西でも有数の観光地として年間60万人もの宿泊客を誇るが、宿泊客はホテル内に留まるために市街地はその恩恵を十分に受けることができず、地域全体での観光消費の分散、繁閑ギャップを埋めることが課題となっている。
- ・ 一方、人手不足や訪日外国人旅行者の取り込みを契機として全国的に泊食分離が加速していることから、旅館等の宿泊事業者としてもこの流れを歓迎する動きがある。
- ・ 市街地には、現在は閑散としているが、かつて淡路島最大の繁華街といわれ、飲食店が多く集まる新開地が存在しており、周辺には大きな受け皿となることのできることから、この場所へ送客する仕組みが必要である。
- ・ しかし、ドライバー不足により既存のバスやタクシーの増便は困難であり、新たな二次交通の強化策が不可欠である。その解決策として自動運転バスに注目した。
- ・ 年間60万人の宿泊客を誇る温泉街と繁華街を結ぶ夜間バスが実装されれば、泊食分離を推進することで旅館街の人手不足に貢献し利益率を向上させる一方、市街地の飲食店等の消費額が向上、宿泊客や温泉街で働く従業員の満足度も向上し、地域の交通事業者の利用者数も増加することで住民の足である公共交通バスの減便を防ぐなど、「**繁閑ギャップを埋める**」ことで持続可能な観光地形成に欠かせない地域一帯の消費額向上という好循環が生まれる可能性を秘めている。

【事業内容】

- ・ 温泉街や繁華街などを走行する自動運転バスの実証運行にあたり、車内に観光案内スタッフや観光PR映像などを実装させることで、新たな移動手段となる当該バスをコンテンツ化し、観光客の利用促進を図る。
- ・ 夜間は温泉街や繁華街を走行し、日中は市街地から高齢化率50%を超える由良地区を走行し、観光を切り口として市内の二次交通の強化に繋げる。

【推進ポイント】

- ・ 単に自動運転バスを実証するのではなく、本事業を通じて様々な仮説を検証することで、将来的な洲本市の利益となるように事業を設計した。
- ・ 本市で実証できることは、同様の地域へ転用可能であることから、マクロの視点においても有効である。
- ・ 本格実証の前段として、関係者や専門家を交えた協議会を開催するほか、貸し切りバスによるプレ実証や需要調査を行い、取り組みの効果や実証の熟度を高める。



実証事業の様子

5-①. 成果及び今後に向けて

補助事業②

温泉街と繁華街を結ぶ自動運転バスの観光コンテンツ化事業

令和7年度事業の目標（KPI）

指標名 由良線（温泉街⇔繁華街）の利用者増加率

令和7年度に掲げた目標値

- 現状値4,310人から2%の増加

事業の成果/目標の検証結果

- 4,889人：14%増（昨年比240人（5%）増） 達成（達成率700%）

成果の詳細

- 地域の再生の柱と位置付けた自動運転バス事業を実施。昼間は住民のアシ、夜間は観光需要の取り込みを目指して2ルートを走行。ホテルニューアワジをはじめとする洲本温泉が近くにある地域特性を活かし、観光需要を取り込むことで住民のアシである公共交通の収益性を担保する計画を実行。
- 11月14日から金土日祝の16日間を運行。期間中900人が利用した。（日中：688人、夜間：212人）夜間の利用者アンケートでは、65%の方が「自動運転バスがあったから外出した」と回答。内、約40%が5,000円以上を使用したと回答しており地域の消費額拡大に寄与した。
- NHKをはじめ、神戸新聞等にもとりあげていただいたほか、車内では洲本市の観光PR映像を放映することで、本市のPRに貢献。
- 出発式には地域を構成する多様な関係者が出席し、連携を深めることができた。このことは今後につながる最も大きな成果となった。
- 淡路島で最もブランド魚介を産出する由良漁協の協力を得て貨客混載を実証するなど、可能性を追求した。（乾燥海苔を運搬）
- レベル4に耐えうる区間の割り出しができたため、より精度を向上させる取り組みが可能となった。

令和7年度事業を踏まえた継続課題

1 地域住民への理解促進

- 由良地区の町内会長から地域から好意的な意見が寄せられていると伺った一方で、児童保護者向けのアンケートでは、子どもが通行する道路での実証においては、76%の方が「少し不安」、「不安」と回答しており、積極的な受容性向上の施策が必要である。

2 利用者への周知

- 周知が十分ではなかったことで、夜間において利用者数が伸び悩んだ。

令和8年度以降の方針

1 実証レベルの向上に向けた予算の確保

- 今回はレベル2での実証を行ったが、多様な関係者との連携網が構築できたことで、レベル4に向けた実証体制は整ったと考える。ただし、多額の費用を要することから、住民との対話や洲本市、ひいては淡路島としての戦略にかなうのかを検討する必要が生じている。

5-②. 主な取組（詳細）

需要の分散・平準化

補助事業④	ストリートカルチャーやミューラルアートによる新たな賑わい等創出事業		
事業目的	住民と観光客の交流による新たな賑わい創出と観光客の分散化		
実施主体	兵庫県洲本市	実施期間	令和7年10月～令和8年1月

【背景・課題】

- 本市はシーズン（夏と夏以外）によって観光需要に大きな差があるほか、夏の海水浴場を除けば、目玉となる観光スポットが乏しい状態である。
- 令和6年度に新たな町おこしとなる若者文化を核としたストリートイベントを地域住民とともに実施した結果、100万以上のSNSアカウントにリーチするなど成果を得た。
- コンテンツの訴求力を引き上げつつ冬季に展開することで、夏に集中する観光需要を平準化させるほか、市街地周遊を促すことで地域の消費額向上を図る。

【事業内容】

- 国内外で多くの需要があるミューラルアートやブレイクダンスといったストリートカルチャーと、伝統芸能など地域独自のローカルカルチャーを融合させ、冬季において、非混雑地域に新たな賑わいや観光スポットを創出する。

【推進ポイント】

- ダンスイベント、ミューラルアート等制作イベントを**冬季に開催することで、夏季に集中している観光需要を平準化し、市民生活への影響を緩和しつつ、地域一帯の消費額向上を目指す。**
- 洲本市は、市内をどのように周遊を促すかという部分に課題を持っていることから、言葉が分からずとも価値を共有できるミューラルアートを市内各所へ配置していくことにより、Japan Wallsが手がける和歌山県白浜町、株式会社WallShareが手がける大阪市此花区のようにミューラルアートを積極的に活用した街づくりを行い、市内を周遊するコンテンツを制作するとともに広く国内外に洲本市をPRしたい。また、洲本市市街地は、令和8年に築城500周年を迎える洲本城跡の城下町として発展してきた歴史を持ち、江戸期から変わらぬ碁盤の目のような街並みが現存しているためミューラルアートとの適正は高く、周遊を促進することにより地域の飲食店等への消費額が向上する可能性を持つ。
- ただし、ミューラルアートは住民との共存が絶対条件であり、地元の風土をどのように残すのかといった視点も必要である。そのため、令和7年度はその第一歩目として、作成するミューラルアートの題材については、地域の小学生へのワークショップを行い、地域と協働して作成を行うことで地域に受け入れられるものを目指す。



ミューラルアート制作



ダンスイベント

5-②. 成果及び今後に向けて

補助事業④	ストリートカルチャーやミューラルアートによる新たな賑わい等創出事業
-------	-----------------------------------

令和7年度事業の目標（KPI）

指標名	冬季宿泊者数の増加		
令和7年度に掲げた目標値	現状値：5.5万人（令和6年度）から0.5万人増の6.0万人	事業の成果/目標の検証結果	0.8万人増加の6.3万人（令和7年度）達成（達成率105%）

成果の詳細

- 令和6年度に観光庁の補助事業を活用して実施したダンスイベントに引き続き、ブレイキンやグラフィティ等のHIPHOP3大要素を活用したコンテンツを開発。ダンスイベントでは、ブレイキン世界大会（REDBULLBCONE）で2位になったb-boyharutoをはじめ日本内外で活躍するダンサーが集い、グラフィティでは日系ブラジル人のチチフリーク氏による総延長50mのミューラルアートを制作することにより、洲本市のPRを図りつつ観光スポットを構築した。
- ダンスイベントでは、2日間で4,200人を動員。PVはサンテレビやJCOMチャンネルで発信し約380万世帯以上にリーチ。専用Instagramでは、総インプレッション数約52万を達成。
- グラフィティでは、作成場所が校区である小学校と協働して、洲本市らしさとは？をテーマにワークショップを開催。子供たちの意見を基に、チチフリーク氏が作品のラフを作成し、アーティストが滞在した10日間で感じたものを落とし込みながら作成。子供たちへの郷土の愛着を育むという教育面においても、教師陣から好評を得た。

令和7年度事業を踏まえた継続課題

1 地域住民への理解促進

- ブレイキンもグラフィティも淡路島、特に市街地にはなかった文化であることから、市民から「十分な説明がなかった」といったマイナスの意見や、「メインストリートの何もなかった壁に絵ができ、明るくなった」といったプラスの意見など様々な意見を頂戴した。
- 今後進めるならば、市民との対話を十分深めて、地域の方向性を確認するなどの必要があると感じた。

令和8年度以降の方針

1 イベントの恒常化、周遊促進に向けたコンテンツ改善

- グラフィティについては、本市市街地の碁盤のような路地をもつ城下町という特性を活かし、アートを点在させることでオールシーズンでの周遊コンテンツとしたい。

2 行政から民間への移行検討

- ダンスについては、元々HIPHOPダンスは島内で盛況であり、前回のイベント後にブレイキンのダンススクールが開校、民間主催のダンスイベントが増加するなどしており、民間移行を進めたい。

5-③. 主な取組（詳細）

マナー違反行為の防止・抑制啓発

補助事業⑧	マナー啓発を目的とした多言語案内看板整備事業		
事業目的	観光客向けマナー啓発による観光の魅力と自然保護PR		
実施主体	兵庫県洲本市	実施期間	令和7年7月～令和8年1月

【背景・課題】

- 本市を代表する観光スポットであり、地元住民にも愛される洲本城跡は、瀬戸内海国立公園の三熊山の山麓にあり、西日本最大級の石垣を誇る。令和8年には築城500年を迎え、NHKの大河ドラマなどで露出が増える可能性があり、多くの観光客の来訪が見込まれる。
- また、近年はNHK「日本最強の城」やPHP研究所「歴史街道」で紹介されるなどメディア露出が増加するに従い、来訪者も増加している。訪日外国人旅行者も着実に増加しており、場所によっては、既にごみのポイ捨てや史跡・動植物への不適切な扱い等のマナー問題も起きている。

【事業内容】

- 瀬戸内海国立公園の三熊山にある洲本城跡に多言語案内看板を設置。史跡そのものの魅力を伝えつつ、マナー情報を掲載することで、瀬戸内海国立公園の自然保護や住民と観光客双方の満足度向上につなげ、持続可能な観光地域の構築を目指す。

【推進ポイント】

- 洲本城跡は、瀬戸内海国立公園内でもあり国指定史跡でもあるため、国立公園の景観を損ねないようにするとともに周囲の動植物や遺跡に悪影響を与えないように環境省等の関係省庁等と綿密な協議を重ねる。
- 洲本城跡内にはレッドデータブックに掲載されている植物も存在していることから、掲載有無を含めて慎重に協議する。
- 設置数についても、過多にならないよう専門家の助言を聞きながら調整を行う。

マナー情報掲載イメージ



5-③. 成果及び今後に向けて

補助事業⑧	マナー啓発を目的とした多言語案内看板整備事業
-------	------------------------

令和7年度事業の目標（KPI）

指標名	ごみ焼却量の減少率	
令和7年度に掲げた目標値	▶	事業の成果/目標の検証結果
<ul style="list-style-type: none"> 現状値（106,890kg）から3%減 		<ul style="list-style-type: none"> 29%減少 達成（達成率967%） ※測定時の月数による値（93,710kg）と比較

成果の詳細

- 本市の市街地には、令和8年に築城500周年を迎える洲本城跡や白砂清松の大浜公園、江戸期から変わらぬ城下町の町並みを残す路地、レトロな商店街など観光スポットがコンパクトに集中している。近年メディア露出が増加している洲本城跡は、西日本最大級の石垣群を誇り桜の名所でもあることから、訪日ゲストも増加している一方、瀬戸内国立公園でもあることから敷地内にゴミ箱を設置していない。本事業は、持続可能な観光地構築のため、マナー情報を掲載した多言語案内看板の設置を行う。
- 洲本城跡内に6カ所看板を設置した。
- 国指定史跡であり、瀬戸内国立公園内であることから、環境省等と事前に協議を重ね、国立公園の景観を損ねないように配色や外装を決定。また、周囲の動植物や史跡に与える影響を最小限にするため、場所によっては置き基礎にて施工するなど、配慮を重ねた。

令和7年度事業を踏まえた継続課題

1 地元団体との合意形成

- 地元団体からは更に看板を設置してほしいという希望が寄せられているものの、観光専門家からは、案内看板を設置しすぎるとかえって景観を損ねると助言を受けていることから、全体的なバランスを考えていく必要がある。

令和8年度以降の方針

1 周知の強化

- 築城500周年という節目に合わせて、新しいパンフレットの制作や多言語でのマナー情報を含めた周知を強化する。また、洲本城跡では安土桃山時代から活躍している石工職人集団「穴太衆」が石垣の修復作業をしており、穴太衆による現地説明会を行うなど、総合的なPRを行う。

5-④. 主な取組（詳細）

地域全体の観光地域づくりにかかわる事業

補助事業⑩	地域全体の観光地域づくりにかかわる事業		
事業目的	地域住民の観光に対する理解や認知度の向上による合意形成		
実施主体	兵庫県洲本市	実施期間	令和7年9月～令和8年1月

【背景・課題】

- 万博や周辺空港の国際化により、訪日外国人旅行者の来訪拡大が見込まれる中、受入側の人手不足や受入環境整備の遅れ、住民理解の遅れがあり、地域全体で訪日外国人旅行者対策の検討が必要。
- 前年度、遊休地の活用や訪日外国人旅行者観光を切り口にした洲本市全体の地域活性化をテーマに多様な関係者で意見交換会を実施しており、地域全体の機運が醸成された中、今後の具体・継続的な取組が必要。

【事業内容】

- 訪日外国人旅行者対策や遊休地等の有効活用について、専門家の意見も聴取しながら分析・検討を行うとともに、幅広い関係者を集め、観光に係る計画の策定や事業成果を検証し、地域住民の理解や認知度向上を図る地域協議会を開催する。
- 観光に対する認知や理解を深めていただくため、住民や事業者向けにセミナー等を実施する。



協議会・セミナー実施の様子

【推進ポイント】

- 淡路島においては、年間1,000万人を超える観光客が訪れているが、訪日外国人旅行者はその内の2%程度である。瀬戸内7県でみても、令和6年の訪日外国人3,600万人の内の7%程度となっている。このような中、神戸空港等淡路島近隣の空港が国際化しており、今後は現状以上の来訪が見込まれている。
- また、本市では60万人の宿泊客が存在している一方、市街地への誘客が大きな課題となっている。
- 一方で、地元にはひとりで人手不足を背景とした受入環境の整備が遅れているほか、そもそもの地域の強みや弱みの共有、お互いの連携が不足している。
- この現状を打破するため、観光客の満足度と在住民の生活環境の調和との両立を意識し、地域共生型観光の確立を目指した協議会を数回開催する。
- 更に、専門家やコンサル事業者により、洲本市についての分析を実施する。分析は、ミクロとマクロの観点から行うほか、類似する地域性を持つ先進事例との比較や、交通量調査、地域住民や地域事業者・近畿圏の来訪経験者及び来訪未経験の方へのアンケート、GoogleレビューやX等、多角的に実施する。
- 分析で得られた情報は協議会を通じて地元へ共有することで地域一帯の価値観の醸成を促し、共同体の意識を高める。
- そのほか、今後の地域づくりを推進するためのマネジメント体制を構築するためのワークショップなどを実施することで、持続可能な観光地域づくりを推進する。

5-④. 成果及び今後に向けて

補助事業⑩		地域全体の観光地域づくりにかかわる事業	
令和7年度事業の目標（KPI）			
指標名	協議会への参加者		
令和7年度に掲げた目標値		事業の成果/目標の検証結果	
<ul style="list-style-type: none"> 現状値：10人（令和8年）から5人増 		<ul style="list-style-type: none"> 15人が参加 達成（達成率100%） 	
成果の詳細			
<ul style="list-style-type: none"> DMO、連合町内会長、洲本旅館組合長、洲本飲食組合長、淡路交通株式会社、行政など幅広い関係者が参加した結果、互いの考え方などを知ることができ、地域を構成する各所との連携が深まった。 市民に向けたアンケート調査を実施し、市民が洲本市という地域をどのように考えているのか、何が必要と思っているのか、観光推進をいいことだと思っているのかなど、市民の意見を可視化することができた。 FAMトリップを実施し、観光の専門家視点で行政や住民が気付いていない地域の強みや美しさなどを再発見することができ、市民向けフォーラムにて周知。日本以外の地域との比較や宿泊税などについても話していただくことで、観光の理解促進を図った。 			
令和7年度事業を踏まえた継続課題		令和8年度以降の方針	
<p>1 住民への観光事業に対する理解促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 連合町内会長からは、「住民と観光業の間に深い溝ができていない」と発言があったほか、アンケート調査でも「観光の恩恵は一部の市民しか得ていない」、観光事業の満足度では、50%が「どちらともいえない」、37%が「不満」と回答する結果となり、行政が捉えている以上に大きな溝ができていない。 <p>2 住民との対話の場の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> 「観光がどのように市民生活に資するのか」という文脈において、観光が2次交通に与える好影響や宿泊税等の事例も含めて、メリットとデメリットを整理しながら、地域が望む方向性を考えるように住民と継続的対話をしていかなければならない。 		<p>1 継続的な住民との対話・理解促進に向けた活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 「行ってよし、住んでよし」の持続可能な町づくりを推進するため、町内会は勿論のこと、様々な地域の方々との対話を継続する。また、住民向けのアンケートについても継続的に実施し、都度公開することで、観光に対する理解を広げていきたい。 	